
うらはらの星

タケ 3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うらはらの星

【Nコード】

N3152M

【作者名】

タケ3

【あらすじ】

スターにはなるべくしてなる。

サッカー大好きな高校生。地元ではカリスマとして、知らない人はいないくらいの知名度を誇る選手。しかし、その実態は・・・

ゆでたばこ（前書き）

サッカー好きな人も、そうでない人も、
一回呼んでみてください。

明るくなれるお話になっております。
自信作です！

ゆでたばい

僕は17になったばかりの高校2年生です。

この歳になって思う事があります・・・。

スターはなるべくしてスターになる。

自分で言うのはおかしいかも知れないが、僕はそんな人間の一人です。

僕はただサッカーが好きで、小学生の時から少年サッカーに通っていました。

親は二人ともサッカーのルールすら知らないが、試合の度に応援団を引き連れて見に来ていました。

何故か・・・

僕は正直そこまで上手くない。

足もそんなに速くない。

足技なんて、全然できましえん。

ただ、何故かいつも活躍するんです。

そう、何故か。。

自分でも分からないんです。気がつく足元にボールがあるので、

蹴る　しかし狙いとは逆に飛んでいく　キーパーの裏をつく　決まる

センタリングに飛び込む　頭には当たらずヒールに当たる　決まる
フリーキック　蹴る　壁に当たる　もっかい蹴る　どっか違うほう
に飛んでいく
ナイスパス！　2ゴール1アシスト　大会優勝　MVP
狙ったシュートはほとんど決まりません。

中学も同じ事の繰り返しでした。
三年の時には全国で2位まで行きました。僕がレギュラーの中では
確実に一番ヘタだったはず。
なのに、

10番でエースは僕でした。1試合で8点とった事もあります。
最後らへんはもう目をつむってシュート打ってましたよ。

親は分からないから僕の事を天才と呼んでいます。
将来はプロになると思ってます。けどなー……

こりゃむりだ！！僕は今県で1、2を争う実力の学校の誘いを蹴
り、普通の学校に通っています。
だってホントは実力ありませんからねー！！
普通の高校なら、まあ、みんなと仲良く、楽しくサッカーできるか
なーなんて思っちゃって。

でも、僕が入学した事をきっかけにサッカーに力注ぎだしまして・
練習は超ハード！！監督はブラジル人（常にグラサン）！！
二年なのにキャプテン！！去年県で三位に入っちゃって……

結局サッカーを楽しめておりません……。

そして今なぜかヤクザさんにかまれて、土下座をしております。すぐ横には目を真っ赤にし、土下座をしている後輩が・

なんでこうなった？？

ちよっと思ひ出してみましょかねえ・・・・

まず、朝のロードワークに出た僕。

毎朝ちゃんと10キロ走ってます。まあ、雨の日は半分くらい・

台風とかは・・休んじゃうね！！危ないもんね！！
一応エースだしね！！

5キロ位の時かな、パリーンって聞こえて、朝なのに怖い声が聞こえて、

見たら公園横のヤクザさんの事務所の窓が割れてて・

んで、後輩やったんだよね。僕みつけて

先輩！！って叫びやがったんだよね。そりゃ参っちゃうよね。

んで、今土下座してますよ。プラス説教ですよ・・・・。

しつけがなってねえ！！ってお前に言われたかねえよ。

窓ガラス代100万円！！　どんだけ高いんだよ。

ガラスで怪我した！治療費100万円！！　　どんだけ高級な保険でもそんなでねーわ！！

親分も怪我したかも・・・！治療費！！　　分かったよ！100万円
だろ！！

120万！！

お前ちょっと親分高いじゃねえかよ！！さすが親分かよ！！

後輩ちょっと笑ってんじゃねえよ！！

そんな時だ、割れた窓ガラスがあいて、角刈りでちょっとワイルドなアゴ髭を生やした
パジャマのおじさんが顔を出した。

「うお！！お前まさか相沢昂か！？」

そのあと、色紙にサインをし、何故か朝ごはんを一緒に食べた。
クロワッサンにコーヒー。ゆでたまご。

組長は板東英二のもののまねをしてくれた。あんまし似てなかった。
気を利かせて組員の人たちは笑っていた。
僕は大人って大変だなと一瞬思った。

どうやら組長は僕のファンだったらしい。高校サッカーが大好きで、
試合も見にくれていた。

そんなこんなで今日もなんとか災難を乗り切れた。

結局今日のロードワークは5キロでした。

ゆでたばこ・・・

つづく

ゆでたばこ（後書き）

読んだら感想を教えてください。

これから頑張って書いていきますので、応援よろしくお願いします。

相沢 昴

その日、学校では後輩が僕がヤクザさんから助けしてくれた勇者として、至る所で喋りまくっていた。

「さすがです！相沢サマ！！！」

また始まりましたよ。女子集団の相沢サマ攻撃・・・。

「昴お前勇気あるよ！！！」

相沢サマ！勇気あるよ！！って言うけども・・・ヤクザに土下座して、ゆでたまご食べただけじゃん。

学校は普通の進学校です。僕が入った事によりサッカーには力を注いでいるが、後はどこにでもあるようなフツターの学校です。野球部は二回戦、三回戦で消える。バスケも同じだ。そして、勉強もそこそこ。

何もなかった学校だからこそその「相沢サマ」なのです。

ただ、サッカーがうまいだけじゃ「相沢サマ」にはなれない。てか、自分の場合はサッカーは

うまくない・・・。

「相沢サマは遠くからでも分かりますわ!!」

「当たり前じゃない!オーラが違うのよ!!」

一緒だよ!!オーラで・・・江原氏か!!

ただ単に、僕は他人よりも背が少し高い。中学の頃から10センチは伸びたろう。

今は筋トレをしているせいか、伸びなくなってきたが、184センチあるのもういいかなと思っている。親に感謝だ!!FWとしては武器になりますから。

そして、「相沢サマ」の理由のもう1つ。ずばり「顔」である。

自分でいうのも嫌だが、何故か男前に生まれてきた。関西の感じというと

シュってしてる・・・です。

ただ、勉強はできない。たぶん脳みそのシワはあまりなく、おそらくテュルンテュルンであろう。

大好きなサッカーのルール・・・「オフサイド」にはかなり悩まされましたね。

なんてったって、テュルンテュルンですから。

そんな自分でもテストだけはできる。えんぴつは転がしませんよ！！

オール勘！！というやつでございます。でも記号問題は大概いけます！！

そのかわり、国語の漢字、英語のリスニング、歴史の人物・・・

多い時は諦めが肝心です！！そんな時もありますね。

なぜ相沢君はサッカーの有名校にいなかったの？と一年の頃は良く言われた。

だつてへたくそだからね！！とは、言えなかった。

僕は時々噛む！しかも大事な所で噛む。しかしそれが時々思ってもみないような結果を生む。

なんて言おうかなと思って。出た言葉は・・・

「ちゅかれつから」疲れるから。って言いたかったのに。

えっ？ちか何？て聞きなおされて・・・噛んだってばれたくなくて、

「近いから」って答えてしまったわい！！・・・流川か！！
我ながらかつこいい答えだな！！とんだ嘘つきやわい！！

そんな男としてかつこよくないのに、男からも人気がある。

最初は軽く仲間はずれの扱いを受けていた。

そりゃそうだ。こんなルックスで女にキヤーキヤー言われてる男を
好きな奴はいない。

そんな僕は足が無茶くさい。練習が終わり家で裸足でご飯を食べて
いると、納豆ご飯を
食べていると一瞬錯覚する。あと、犬が僕の足に無茶吠える。

この足は敵だと思われるのかも知れない・・・。

学校でその事がばれる出来事がおきた。
僕自身あんまり気にはしないので、授業中に寝た時に上履きが
はずれていたようで・・・

オナラ事件が起きた。とみんなは思ったようだ。

僕が起きて上履きを履くと、臭いは一瞬にして収まった。

犯人は誰だ。

コナンを呼べ。

しかし犯人は寝ていた。・・・迷宮入りである。

この事件は僕が寝るたびに起こっていた。
毎回同じ臭い・・・

犯人は誰だ。

コナンはまだか。

・・・迷宮入りである。

ある時自分が起きている時に上履きが脱げた。
またこの臭いだ。

犯人を捜すのをもうみんな諦めていた。だってコナンはいないのだ
から・・・

しかし前回と違う事が1つだけある。・・・

犯人は起きている。そして事件も起こっている。

隣の女子はこういう・・・

「相沢君いままで寝てたから嗅いだ事ないよね。このクラス時々この臭いがするのよ」

いやいや、毎日嗅いでいる。家の犬も嗅いでいる。靴下さんはもう耐え切れない！！

ちょっと楽しくなり、履いたり脱いだりを繰り返した。その度に英語の先生の口が止まる。

それはそうだ。いままで時間は長かったかも知れないが、一回だった臭いの波がザブンザブンと津波のように何度も押し寄せるのだ。

先生が耐え切れなく言った。

「誰や！！！！」

僕は一人爆笑した。

こうしてこのクラスの不思議な臭い事件は解決した。

人には欠点がある。足が半端なく臭い自分を笑い飛ばしている僕に、今まで冷たかった男子たちも、近づいてきてくれた。

少し女子は離れたが、忘れてきたのかまた「相沢サマ」攻撃が始まる。

そんな時は、自分から秘密の花園を開放するのだ。

こうして僕は楽しい学校生活を送っている。

敬語口調はめんどくさくなってしまったので、もうやめることにしました。

あと、そろそろサッカーにふれていかなきゃと思いつつ、今回はこれにて終了したいと思う。

次回からはサッカーしよ！

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3152m/>

うらはらの星

2010年10月11日01時11分発行